

令和3年度 行政評価結果

【第2巻 戦略プロジェクト評価】

評価からはじめるまちづくり

令和3年 12月

盛岡市

目 次

I 戦略プロジェクトについて

- 1. 戦略プロジェクトとは何か 1
- 2. 令和3年度戦略プロジェクト 1

II 戦略プロジェクト評価について

- 1. 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか .. 2
- 2. どのような仕組みか 3
- 3. 評価結果を何に反映させるのか 3
- 戦略プロジェクト評価シート中の成果指標の評価基準 4
- 戦略プロジェクトロジックモデルシートの見方 5
- 重点1 未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト.. 7
- 重点2 みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト .. 11
- 重点3 2020あつまる・つながるまちプロジェクト .. 15

I 戦略プロジェクトについて

1 戦略プロジェクトとは何か

平成27年度からスタートした総合計画の基本目標^{*1}を達成するため、各分野の29施策^{*2}において、それぞれ取組を推進していく一方で、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応するため、施策単位での取組を連携させながら事業実施の効果を高め、課題を解決し、基本目標の達成や将来像の実現を目指していく必要があります。

このことから、本市の課題等を踏まえた、重点的・施策横断的な取組を「戦略プロジェクト」として展開します。

取組期間は、おおむね3年を目途に重点を置いた取組を進めます。

*1 基本目標

総合計画の基本構想に掲げている「目指す将来像」の実現のため、まちづくりの理念や方向性を表したもの

*2 施策

目指す将来像の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、4つの基本目標の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。

2 令和3年度戦略プロジェクト

重点1 未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト

ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響による企業調達の国内回帰やサプライチェーンの分散化などの動きを把握しながら、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出します。

また、テレワーク等ICT活用による新しい働き方の導入、AI、IoT等の新技術の活用による生産性の向上、盛岡産農畜産物の優位性を生かした付加価値向上など、地元企業や農林業などの効率性や生産性を高め、地場産業の基盤の安定

化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進します。

重点2 みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト

コロナ禍にあっても、若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができるよう、親と子が地域や学校の中で孤立しないための取組や、困難を抱えた家庭への支援を行うとともに、子育ての相談や子どもの健全な成長を支援する体制を充実するなど、子育て環境の充実を図り、盛岡に住み続けたいと思える、安心して子育てのできるまちを実現します。

重点3 2020あつまる・つながるまちプロジェクト

本市を訪れる旅行客が満足し、選ばれる観光地域となるため、歴史や自然、文化などの恵まれた観光資源を生かし、ブラッシュアップするとともに、様々な媒体を通じて本市の魅力を積極的にプロモーションします。また、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成や、コロナ禍におけるオンラインや感染予防に留意したイベントの開催、感染リスクを回避する新しい旅のエチケットの徹底による安心かつ盛岡ならではの観光の実現により、交流人口を増やし、魅力があふれるまちづくりを推進します。また、一時的な滞在にとどまらず、盛岡との継続的な関係性の構築から移住・定住につなげるなど、盛岡への新たな人の流れの創出を進めます。

II 戦略プロジェクト評価について

1 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか

戦略プロジェクト評価は、各戦略プロジェクトが目的や目標に対し、どの程度達成されたか等の視点により評価するとともに、ロジックモデルシートを活用した戦略プロジェクトと構成事業の関係性や成果の顕在化についても評価しています。

なお、評価シートでは、戦略プロジェクトの目標値に対する実績値の推移をグラフ化して表すとともに、実績の評価を踏まえた今後の展開についても示しています。

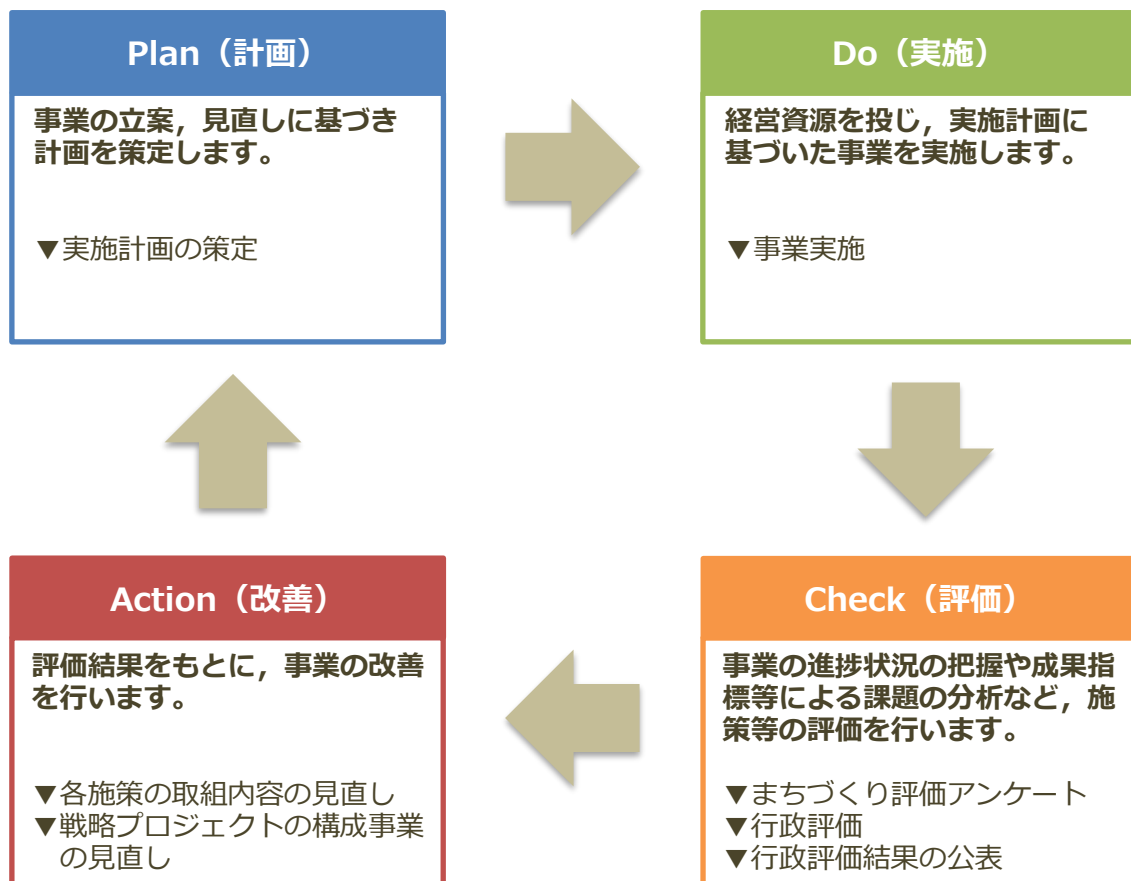
戦略プロジェクトは、設定した取組期間内において目標を達成することが求められていることから、前年度の実績を踏まえながら当該年度の評価時点にお

ける進捗状況評価（事中評価）を実施することで、戦略プロジェクトの着実な推進を図ります。

2 どのような仕組みか

計画（PLAN）→実施（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）の循環（マネジメントサイクル）を確立し、市の行政活動について絶えず振り返りを行うことにより、次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。

○総合計画の進行管理



3 評価結果を何に反映させるのか

戦略プロジェクト評価の評価結果は、今後の戦略プロジェクトの推進や構成事業の見直しに活用するとともに、戦略プロジェクトの期待する効果の実現に向けて特に高い効果が得られる事業に対し、重点的に予算を配分するなど、予算編成に活用することとしています。

戦略プロジェクト評価シート中の成果指標の評価基準

各施策・取組の評価基準は、原則として次のとおりとしています。

なお、下記評価基準のうち、成果指標の性格が「↓」のものは、“減少”を“増加”に読み替えます。

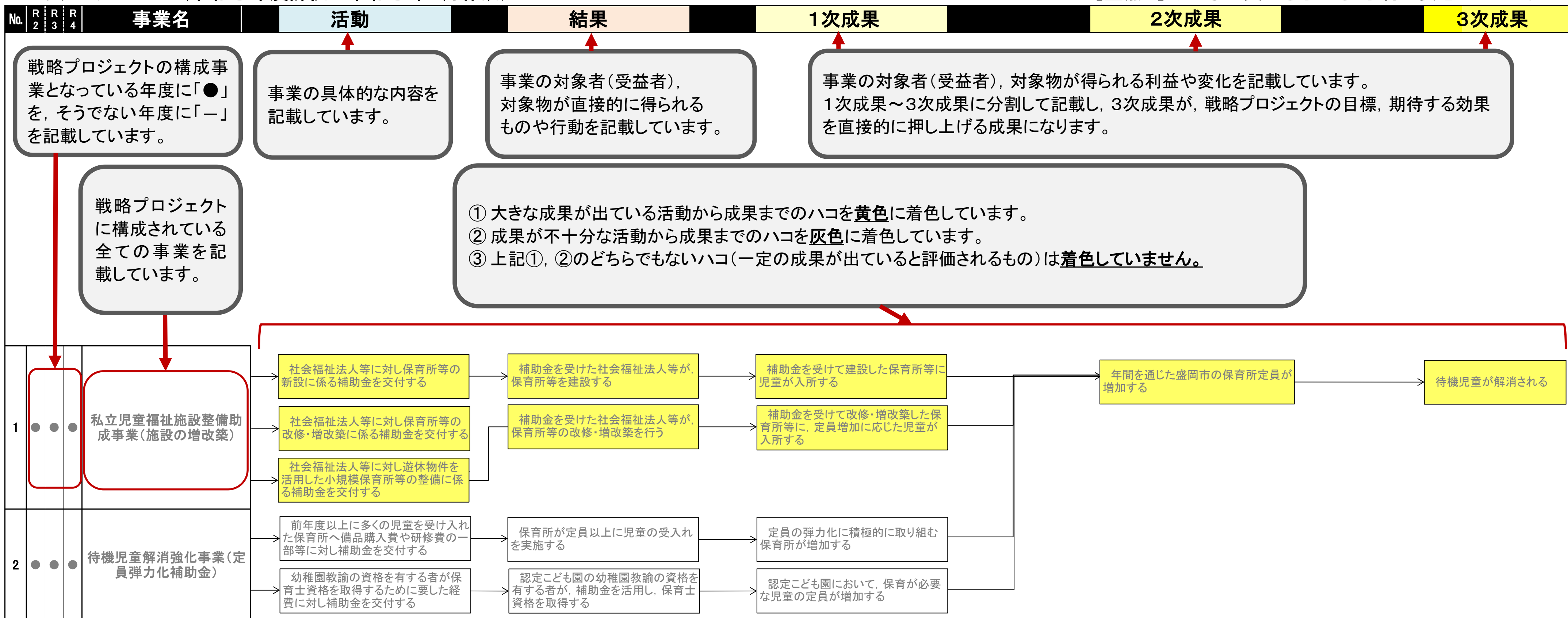
- (1) 令和2年度実績値が、最終年度の目標値を達成しているものについては、「目標値に到達（☆）」と評価します。
- (2) 令和元年度を基準として、最終年度目標値に対し、令和2年度の進捗率が2割を超えるものについては、「目標値に向け順調に推移（◎）」と評価します。
- (3) 令和元年度を基準として、最終年度目標値に対し、令和2年度の進捗率が2割以下の場合については、「目標値に向け推移（○）」と評価します。
- (4) 令和元年度の基準値と令和2年度の実績を比較して、減少又は停滞しているものについては、「遅れが生じている（△）」と評価します。

戦略プロジェクト ロジックモデルシートの見方

- ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものです。
- 戦略プロジェクトにおけるロジックモデルシートは、各事業がどういった論理（ロジック）で戦略プロジェクトの期待する効果に至るのか、その過程を、数段階（活動、結果、一次成果、二次成果、三次成果）に分けて整理しています。つまり、活動から右へ順に、時間の経過にともなう成果の流れを表しています。
- ロジックモデルシートを作成するにあたっては、経験と事業実績に基づいて、「こうなることによってこうなる、その結果こうなる・・・」という論理の流れを考えます。このような論理的な根拠を持ったより良い仮説を立てることが、より有効性の高い事業をつくりだすことにつながると考えています。また、毎年このロジックモデルを検証し、見直すことによって、戦略プロジェクトの期待する効果の達成を目指します。

ロジックモデルシート(令和〇年度評価/令和〇年7月作成)

[重点2]みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト



(余白)

【戦略プロジェクト評価(令和3年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト
期待する効果	やりがいのある仕事を創り、若者が引き付けられ暮らし続ける、活力のあふれるまちになる
重点取組期間	令和2～令和4年度
主管部名	商工労働部 ・ 農林部
戦略プロジェクト統括マネージャー	赤坂 國彦 商工労働部長 ・ 小笠原 康則 農林部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
<p>人口減少社会において、若者がどれだけ盛岡に残り、定住してもらえるのかという課題があり、この課題解決のためには、「やりがいのある仕事」、「安定した雇用形態」、「所得の向上」といった雇用の質を重視した取組が重要である。</p> <p>市内中小企業の多くが人材不足や後継者問題、人口減少による市場の縮小など多くの経営課題に直面し、また、第一次産業では担い手の高齢化や後継者不足などが深刻化している。これらの課題の解決に向けては、新たな人材の育成や確保のほか、経営の持続的な成長につながる取組や経営力の強化などを促進する必要がある。</p> <p>同時に、新型コロナウイルス感染症の流行下においては、感染を避けながら社会・経済活動を継続するため、ICTを活用したテレワークやリモートワークなど新しい働き方の導入が進展しており、AI、IoTの技術をはじめとしたSociety5.0など新しい社会の動きを捉え、産業の付加価値や生産性の継続的な向上につなげていく必要がある。</p>	<p>ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響による企業調達の国内回帰やサプライチェーンの分散化などの動きを把握しながら、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出する。</p> <p>また、テレワーク等ICT活用による新しい働き方の導入、AI、IoT等の新技術の活用による生産性の向上、盛岡産農畜産物の優位性を生かした付加価値向上など、地元企業や農林業などの効率性や生産性を高め、地場産業の基盤の安定化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
<p>若者</p> <p>地元企業・農林業</p>	<p>盛岡でやりがいのある仕事に就き、暮らし続ける</p> <p>基盤を安定化させ、魅力を向上させる</p>

目標指標の状況・評価(令和3年7月時点)

実績値の推移			実績の評価	
指標	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
指標① 盛岡公共職業安定所管内の高校生県内就職率 当初値(H29) 63.8 R4目標値 70.0 目指す方向 ↗ 	%	○	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、選考時期が後ろ倒しになったものの、商工関係団体に対する求人確保の要請や、求人票の早期提出を各機関が呼びかけたことにより、県内の求人情報を高校生が早期に知ることができた。</p>	<p>・ハローワークや県、市がそれぞれ地元企業を学生が知るための取り組みを行った。</p> <p>・毎年行っている高校生を対象としたインターンシップ事業が地元企業を知るきっかけとなったと考えられる。</p> <p>・高校生の就職面談会を開催するなどして、就職機会の提供を図った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により地元志向が強まったと考えられる。</p>
			「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
			<p>・毎年度数値は伸びているものの、平成30年度以降は、その伸び幅が小さくなっている。</p>	<p>・大都市圏の企業と比較した場合に、待遇差があることから、一定数県外での就職を選択する。</p> <p>・企業の知名度が大都市圏の企業と比べて低い。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、希望する職種の求人がないもしくは少ないことから、進学に切りかえた学生も一定数いるものと考えられる。</p>
指標② 県内大学生県内就職内定率 当初値(H29) 43.6 R4目標値 45.0 目指す方向 ↗ 	%	◎	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の地元志向が強まったことと、企業側においても新卒の採用に対して積極的であったこと。</p>	<p>・ジョブカフェいわて運営事業により多くの学生にきめ細やかな就職支援を行っている。</p>
			「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
			<p>・昨年度と比較すると率は大きく上昇しているが、平成29年の当初値には及んでいない状況にある。</p>	<p>・県外企業の新卒採用意欲が依然として高かった。</p> <p>・市内企業の知名度が高くないために、大卒後のスキルを活かす場所がないと考え、県外に就職先を求めていると考えられる。</p>

今後の展開(評価時点～令和4年度)

評価を踏まえた今後の取組
<p>☆1 高校生インターンシップの参加企業・参加高校を増やし、多くの学生が地元企業を知るきっかけとする。</p> <p>☆2 地元で働き生活することの魅力若者に伝える方法についてさらに検討を行う。</p>
<p>☆1 県外大学等の学生のUIターンを促進するための取組を行う。</p> <p>☆2 地元企業の働く場としての魅力を向上を図る。</p> <p>☆3 大都市圏との待遇格差の解消に資するため地域経済を活性化させ、企業収益向上を目指す取り組みを行う。</p> <p>☆4 若者の起業を支援するための取組を行う。</p>

指標③ 青年就農者数(累計) ※新規就農者のうち45歳未満の者			単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
当初値(H29)	96	R4目標値	160	目指す方向	↗	
					<ul style="list-style-type: none"> 全国的な田園回帰の潮流により、農のある生活に新たな価値が見い出されている。 農業次世代人材投資資金や親元就農給付金の交付が、新規就農を後押ししている。 直近3年間の新規就農者数の約半数が、農業法人・団体に職を得る「雇用就農」であり、法人等が新たな担い手を確保・育成する受け皿となっている。 「美食王国もりおか」ファンクラブ会員へメールマガジンでの継続的な情報発信を続けているほか、「畑のお手伝いプロジェクト」など農業を体験できる機会を創出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 大地震や記録的豪雨、新型コロナ等の災害等により、生活基盤が脆弱化しており、暮らしのあり方が見直されている。 農業次世代人材投資資金や親元就農給付金は、農業所得が不安定な就農初期段階を支えている。 雇用就農を一定期間経過後、独立就農するケースがあることから、雇用就農が独立就農への助走期間と捉えられ、選択される傾向が続いている。 「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」のアクションプランに基づき、食と農の基盤強化、魅力発信などに係る事業を展開し、食や農への興味、関心を高める機会を創出できた。
「指標の目指す方向」に向けた問題点					問題点の要因分析	
<ul style="list-style-type: none"> 「農業は儲からない」「生活するための十分な所得が得られない」「体力的にきつい」などの負のイメージがあると推定される。 新規就農者は、農地や農業用機械の取得が必要であり、他産業に比べても初期投資が大きいと推定される。 「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に掲げるアクションプランに基づき、実施した事業への参加者は、中高齢者が中心であり、若い世代の参画が少ない。 					<ul style="list-style-type: none"> 農政フォーラム、圃場の現地見学会、イベント会場での相談ブース設置などを展開し、農業の魅力や現役就農者の紹介を発信してきたが、十分に情報が行き届いていない。 新規就農者向けの融資制度や補助事業の周知に努めているものの、十分に情報が行き届いていない可能性がある。 これまでの展開事業では将来を担う若者への訴求が不十分。 将来を担う若者が事業へ参画するよう引き続き、訴求力のある事業を展開する必要がある。 	
指標④ 盛岡市内の働き方改革関連認定企業数			単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
当初値(H29)	29	R4目標値	120	目指す方向	↗	
					<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランスの推進への取り組みの必要性が企業に浸透してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国をはじめ、県・市など様々な機関がワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組を呼び掛けてきたほか、ワーク・ライフ・バランスの実現に資する研修会等を開催している。
「指標の目指す方向」に向けた問題点					問題点の要因分析	
・特になし					・特になし	

<ul style="list-style-type: none"> ☆1 個別具体の就農相談を継続し、農業改良普及センターなどの関係機関とも連携しながら、丁寧な対応と必要な情報提供を徹底する。 ☆2 JA・振興局などの関係機関と協力し、補助事業等各種制度の周知を徹底する。 ☆3 「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、関係する様々な主体と連携しながらアクションプランに取り組んでいく。また、各取組の実施に当たり、ターゲットを若者に設定するなど、若い世代の参画を意図した企画を実施する。 ☆4 事業計画に沿って、スマート農業導入促進事業、輸出支援事業、森のしごと見学会等に取り組み農林業の魅力発信に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 働き方改革に取り組むためのセミナーを開催し、企業の取組を引き続き支援する。 ☆2 中小零細企業の人材確保を支援し、働き方改革への取組が行える環境づくりを図る。

※進捗状況の評価(4段階) ☆:目標値に到達, ◎:目標値に向け順調に推移, ○:目標値に向けて推移, △:遅れが生じている

重点1] ロジックモデルシート/未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト

(令和3年度評価用)

No.	R2	R3	事業名	R3予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果	
1	●	●	食と農の連携推進事業/食と農のバリューアップ推進事業(美食王国もりおかPR事業、6次産産化等スタートアップ支援事業)	25,057	「美食王国もりおか」ウェブサイト・ファンクラブの管理運営を委託する 盛岡市の食と農の魅力を発信し理解を深めてもらうための複数のプロモーションを委託する 6次産産化セミナーの開催を委託する 12 6次産産化等を行うとするとする生産者に対し、補助金を交付する	3・4 委託を受けた事業者が、「美食王国もりおか」ウェブサイト及びファンクラブを管理運営する 5・6 委託を受けた事業者が、冊子制作やメディアを活用して「美食王国もりおか」をPRする 7・8 委託を受けた事業者が、盛岡産産産物の理解促進に係るイベントを開催する 9・10 委託を受けた事業者が、6次産産化セミナーを開催する 11 生産者が、補助金を活用し、商品・サービスの開発や改良、新たな販路の開拓等を行う	2 市民の盛岡産産産物の購入意欲が高まる 6次産産化に成功する生産者が増える	盛岡産産産物の消費が拡大する 盛岡産産産物の高付加価値化が図られ、販路が拡大する	農業生産者や食産産業関連事業者の所得が向上する 市民が食と農の魅力を認識し、誇りをもってその魅力を発信する	1 農業における人材確保が進む
2	●	●	食の農の連携推進事業(盛岡の食材プロモーション事業)	3,351	19 盛岡市農業振興連絡協議会に負担金を支出する	14・15 農業振興連絡協議会と盛岡広域振興局が連携し、生産者と食産産業事業者による商談会を開催する 16・17 農業振興連絡協議会と盛岡広域振興局が連携し、食産産業事業者を対象とした産地訪問ツアーを開催する 18 農業振興連絡協議会が「盛岡の美味いもんアンバサダー」認定制度を企画・運営する	13 商談会をきっかけに、生産者と食産産業事業者の取引が生まれる 産地訪問ツアーをきっかけに、生産者と食産産業事業者の取引が生まれる 「盛岡の美味いもんアンバサダー」認定制度をきっかけに、地元食材を利用する食産産業事業者が増加する			
3	●	●	新規就農支援事業	23,235	28 新規就農者に対し、農業次世代人材投資資金を交付する 30 新規就農者に対し、親元就農給付金を交付する	27 新規就農者が、農業次世代人材投資資金を活用し農業をはじめ 29 新規就農者が、親元就農給付金を活用し農業をはじめ	新規就農者が、安定した営農を続ける			
4	●	●	農業生産対策事業(スマート農業導入促進事業)	5,550	33 農業用ドローンの購入、オペレーター講習を受講する農業者に対し、補助金を交付する	31・32 農業者が、補助金を活用し、農業用ドローンの購入とオペレーター講習を受講する	農作業の効率化と生産性の向上が図れる			
5	●	●	盛岡りんご担い手バックアップ事業(りんご剪定作業担い手育成補助事業)	800	36・37 りんごの剪定作業の担い手確保に係る経費に対し、補助金を交付する	35 りんご農業者が、補助金を活用し、剪定作業の担い手を確保する	34 補助金を活用したりんご農業者の、剪定作業受注件数が増加する	剪定作業の担い手として従事していた者に、生産技術が継承される		
6	●	●	農業改良普及事業(輸出支援事業)	1,000	41 盛岡市農業振興連絡協議会に負担金を支出する	39・40 盛岡市農業振興連絡協議会が、輸出支援に関するセミナーやフォーラムを開催する	38 セミナーやフォーラムに参加した生産者の輸出意欲が高まる	輸出意欲が高まった生産者が、支援を受けて輸出事業を開	盛岡産産産物の輸出量が増加する	
7	●	●	林業労働対策事業(森のしごと見学会)	494	47 高校生等を対象にした、林業・木材産業の関連事業の見学会の実施を委託する	45・46 委託を受けた事業者が、高校生等を対象にした林業・木材産業関連事業の見学会を開催する	44 見学会に参加した高校生見学会に参加した高校生等が、林業・木材産業関連事業所に興味を持つ	43 見学会に参加した高校生等が、仕事の内容を理解した上で、林業・木材産業関連の仕事に就く		42 林業・木材産業における人材確保が進む
8	●	●	ものづくり人材育成事業	137	49・50 高校生・専門学生・大学生を対象に、盛岡広域の特性を活かしたものづくりをテーマとしたセミナー等を開催する 52・53 高校生・専門学生・大学生を対象に、盛岡広域の特性を活かしたものづくりをテーマとした工場見学を実施する	48 セミナー等に、学生が参加する 51 工場見学に、学生が参加する	セミナー等に参加した学生が、仕事内容や企業への理解を深める 工場見学に参加した学生が、仕事内容や企業への理解を深める	セミナーや工場見学に参加した学生等が、企業の理解を深めた上で、ものづくり産業関連の仕事に就く		ものづくり産業における人材確保が進む
9	●	●	盛岡テクノミュージアム設置事業	250	56 事業者に対して、盛岡テクノミュージアムに登録するよう働きかける	55 地元企業が、盛岡テクノミュージアムに登録する				
10	●	●	工業振興事業(製造業及び情報サービス業市場開拓等事業補助金)	550	60・61 国内の展示会や見本市へ自社製品や情報サービスを出店する事業者に対し、必要経費に係る補助金を交付する 63・64 海外の展示会や見本市へ自社製品や情報サービスを出店する事業者に対し、必要経費に係る補助金を交付する	59 補助金を受けた事業者が、国内の展示会や見本市へ自社製品や情報サービスを出展する 62 補助金を受けた事業者が、海外の展示会や見本市へ自社製品や情報サービスを出展する	補助金を受けた事業者が、国内で新たな販路を開拓する 補助金を受けた事業者が、海外で新たな販路を開拓する	市場開拓等事業補助金を受けた事業者の収益性が向上する	市場開拓等事業補助金を受けた事業者の所得が向上する	
11	●	●	工場新設拡充等事業(企業誘致推進事業)	53,018	68 市の区域内に工場・事業所等の新設・拡充を行う市内既存企業や誘致企業に対し、補助金を交付する 71 道明地区新産業等用地への誘致に向けた企業へのアンケート調査を委託する	67 補助金を受けた企業が、工場・事業所等の新設・拡充を行う 委託を受けた事業者が、企業へのアンケート調査を実施し、立地意向や市への要望を収集分析する	補助金を受けた中小企業の収益性が向上する 65・66 補助金を受けた中小企業が、新たな人材を雇用する	工場等新設拡充奨励事業補助金を受けた中小企業の所得が向上する		
12	●	●	新産業等用地整備事業	48,772	72 道明地区新産業等用地を対象工場等を新設拡充した企業に対し、投資額に応じた補助金を交付する 73 道明地区新産業等用地整備について、業務委託等により実施する	70 補助金を受けた企業が、道明地区に対象工場等の新設・拡充を行う 道明地区に、ものづくり拠点としての新産業等用地が整備される	69 道明地区新産業等用地に、食料品製造業等のリーディング産業や医療分野を中心とした先端技術を有する企業が集積する	クラスター構成企業の収益性が向上する	クラスター構成企業の所得が向上する	
13	●	●	成長分野拠点形成支援事業	31,930	76 クラスタ構成企業の国内外での新展開や新事業の創出を目的としたセミナーの開催を委託する 77 スペシャリスト・シェアリング体制の構築を委託する 79 クラスタ構成企業に対する各種コーディネート業務を委託する 81・82 海外展開を目指す地域経済牽引事業者の新事業に対し、補助金を交付する 84 盛岡ヘルスケア産業協議会に、次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業(血液チェック)に係る負担金を支出する	74・75 委託を受けた事業者が、クラスタ構成企業の国内外での新展開や新事業の創出に向けたセミナーを開催する 委託を受けた事業者が、スペシャリスト・シェアリング体制を構築する 委託を受けた事業者が、各種コーディネート業務を実施する 地域経済牽引事業者が、現地法人の設立に向けて、展示会出展、提携企業との交渉、コンサルタントとの打合せ等を行う 83 盛岡ヘルスケア産業協議会が、協議会会員のネットワークを活用しながら、健康イベントとして血液チェックを行う	クラスタ構成企業が、国内外での新展開や新事業を創出する クラスタ構成企業の経営の安定化が図られる クラスタ内外の企業の連携による新事業が創出される 80 地域経済牽引事業者が、海外での販路を開拓し、現地法人を設立する 血液チェックが、他地域に展開され、実施規模が拡大する	クラスタ構成企業が増加する 次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業が、市民に認知される 次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業が、ビッグデータ化される	次世代ヘルステック・ビッグデータ活用事業が、ヘルスケア産業として成立する	
					87 岩手県内での就職関連イベントへのクラスタ構成企業の出展を委託する 91 盛岡市周辺の学生とクラスタ構成企業の代表者による交流会の開催を委託する 96 盛岡市周辺の学生を対象としたインターンシップの実施を委託する 101 県外の学生を対象としたインターンシップの実施を委託する	85・86 委託を受けた事業者が、岩手県内での就職関連イベントへのクラスタ構成企業の出展を行う 88・89・90 委託を受けた事業者が、学生とクラスタ構成企業の代表者による交流会を開催する 94・95 委託を受けた事業者が、盛岡市周辺の学生を対象としたインターンシップを実施する 99・100 委託を受けた事業者が、県外の学生を対象としたインターンシップを実施する	就職関連イベントに参加した学生がクラスタ構成企業の採用試験を受ける クラスタ構成企業の代表者との交流会に参加した学生が、クラスタ構成企業の採用試験を受ける 92 インターンシップに参加した盛岡市周辺の学生が、クラスタ構成企業の採用試験を受ける 97 インターンシップに参加した県外の学生が、クラスタ構成企業の採用試験を受ける	就職関連イベントに参加した学生がクラスタ構成企業に就職する クラスタ構成企業の代表者との交流会に参加した学生が、クラスタ構成企業に就職する 92 インターンシップに参加した盛岡市周辺の学生が、クラスタ構成企業に就職する 97 インターンシップに参加した県外の学生が、クラスタ構成企業に就職する		

No.	R2	R3	事業名	R3予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
14			商業振興事業(中小企業人材育成支援事業)	200	104・105 市内の中小企業の社員が中小企業大学校等の研修を受講する際の受講料の一部に対し、補助金を交付する	103 市内の中小企業の社員が、中小企業大学校等の研修を受講する	101 研修を受けた中小企業の経営の安定化が図られる 102 研修を受けた中小企業が、市場等のニーズに応じた新製品、新技術の開発やネットワーク形成を図る	中小企業大学校等の研修を受けた中小企業の所得が向上する	
15			産業支援事業	1,218	108・109 大学等との共同研究を希望する中小企業等に補助金を交付する 111・112 中小企業や工業関係団体からの要望を受け、中小企業診断士等の各種専門家を派遣する	107 補助金を受けた中小企業が、大学等との共同研究を行う 110 中小企業診断士等の専門家が、中小企業や工業関係団体が抱える課題について、解決に向けた支援を行う	106 市場等のニーズに応じた新製品、新技術の開発やネットワークが形成される 支援を受けた中小企業の経営の安定化が図られる	中小企業診断士等の専門家からの支援を受けた中小企業の所得が向上する	
16			工業振興事業(企業サポート専門員)	2,892	114・115 企業サポート専門員を配置する	113 企業サポート専門員が、企業訪問を実施し、事業者の意向や個別課題等の把握を行い、情報提供や助言・指導を行う	支援を受けた中小企業が、円滑な事業継承を行う 支援を受けた中小企業の経営の安定化が図られる	企業サポート専門員からの支援を受けた中小企業の所得が向上する	
17			ものづくり産業魅力向上事業	1,265	121 盛岡広域の伝統工芸品事業者の振興に係る事業を、(公財)盛岡地域地場産業振興センターに委託する	116・117 (公財)盛岡地域地場産業振興センターが、青山スクエア等で、盛岡地域の工芸品展示会を開催する 119 (公財)盛岡地域地場産業振興センターが、盛岡地域で活動する工芸品事業者のネットワーク化を図る 120 (公財)盛岡地域地場産業振興センターが、盛岡地域の工芸品とその事業者について情報発信する	首都圏等において、盛岡地域の工芸品への認知・高付加価値化が図られ、購買行動につながる 首都圏等における盛岡地域の工芸品に関する購買ニーズが把握される 「盛岡手づくり村」に、盛岡地域で活動する工芸品事業者の商品が集約される 市内外の人が、盛岡地域の工芸品とその事業者に関する情報を取得する 118 盛岡地域の工芸品が「盛岡手づくり村」に結集することで、市内内外の人の購買行動につながる 市内内外の人が、盛岡地域の工芸品とその事業者に興味を持ち、購買行動につな	盛岡地域の工芸品の販路が拡大する 盛岡地域の工芸品事業者の所得が向上する	
18			インキュベーション支援(産業支援センター)	16,573	124 盛岡市産業支援センターの管理運営を指定管理者に委託する	指定管理者が、盛岡市産業支援センターの管理運営を行う	123 起業を目指す人が、産業支援センターに入居し、インキュベーションマネージャーによる指導・助言を受ける	122 産業支援センターの入居者が、市内で起業する	
19			起業家支援事業	100	127 地域人材育成ネットワーク事業実行委員会に負担金を支出する	126 地域人材育成ネットワーク事業実行委員会が、起業家塾を開催する	125 起業を目指す人が、起業家塾に参加し、事業立上げの手順や事業成功のノウハウ等を学ぶ		
20			インキュベーション支援(産学官連携研究センター)	18,433	131 産学官連携研究センターの管理運営を指定管理者に委託する	指定管理者が、産学官連携研究センターの管理運営を行う	129 企業と岩手大学との共同研究等により新技術が開発される 130 企業が研究成果の事業化に向けた支援を受ける	128 産学官連携研究センターの入居者が、市内に企業を立地する	
21			インキュベーション支援(新産業創出支援センター)	7,893	133 新産業創出支援センターの管理運営を指定管理者に委託する	指定管理者が、新産業創出支援センターの管理運営を行う	新産業創出支援センターの入居者が、独自の新たな技術や新製品を開発する	132 新産業創出支援センターの入居者が、市内に企業を立地する	
22			雇用対策推進事業(U・Iターン、移住支援事業)	6,528	135・136 「岩手県U・Iターンフェア」に出展する 138 市内の企業に就職する等の条件を満たす東京圏からの移住者に対し、移住支援金を支給する	134 「岩手県U・Iターンフェア」に参加したU・Iターン希望者が、盛岡市の雇用等に関する情報を受ける 137 東京圏からの移住者が、移住支援金を活用し、盛岡市で暮らし続ける	「岩手県U・Iターンフェア」の参加者が、市内の企業の採用試験を受ける 移住支援金を活用した東京圏からの移住者が増加する	盛岡市の人口が増加するとともに、市内企業の人材確保が可能となる	
23			雇用対策推進事業/新卒・若者就業支援事業(もりおか就職ガイダンス、企業ガイドブック)	1,382	148 盛岡地域雇用開発協会に負担金を支出する	141・142 盛岡公共職業安定所、盛岡広域振興局、盛岡地域雇用開発協会等が共催し、もりおか高校生就職面接会を開催する 144・145 盛岡公共職業安定所、盛岡広域振興局、盛岡地域雇用開発協会等が共催し、もりおか就職ガイダンスを開催する 147 盛岡地域雇用開発協会が、企業ガイドブックを発行する	140 もりおか高校生就職面接会に参加した高校生が、面談した企業の採用試験を受ける もりおか就職ガイダンスの参加者が面談した企業の採用試験を受ける 企業ガイドブックを見た高校生や若者が、企業ガイドブック掲載企業の採用試験を受ける	139 もりおか高校生就職面接会に参加した高校生が、面談した企業に就職する 143 大学生等の県内就職内定率が向上する 146 高校生の県内就職内定率が向上する	
24			若者の就業支援事業(高校生インターンシップ事業・スキルアップ支援事業、高校生地元就職フォローアップ事業)	2,319	149・150・151 高校生を対象とした地元企業へのインターンシップを実施する 153 「モリオカソコカメラ」の製作・配布を委託する 154・155・156 高校生を対象とした就職に向けたスキルアップ研修会を開催する	インターンシップに参加した高校生の地元企業の認知度が高まる 152 高校生が「モリオカソコカメラ」を手にする 研修会を受講した高校生の実践的な職業意識が向上する	インターンシップに参加した高校生が、経験した企業の採用試験を受ける 高校生が、地元で働く魅力を感じ、地元企業の採用試験を受ける 研修会を受講した高校生の就職に向けた準備が整う	インターンシップに参加した高校生が、経験した企業に就職する 「モリオカソコカメラ」を見た高校生が、地元企業に就職する スキルアップ研修会を受講した高校生が、地元企業に就職する	
25			若者の就業支援事業(若者等地元定着強化事業)	-	159 中小企業を対象とした、採用活動の方法に関する研修会を開催する	157・158 委託を受けた事業者が、中小企業を対象に、採用活動の方法に関する研修会を開催する	研修会に参加した中小企業が、自社の魅力の伝え方や、ターゲットを明確にした採用活動を行う	研修会に参加した中小企業の採用試験を受ける若者が増加する	
26			若者の就業支援事業(ジョブカフェいわて運営事業)	5,004	162 「ジョブカフェいわて」にカウンセラーを配置し、若者を対象に就職等に関するカウンセリングを行う業務を委託する	161 委託を受けた事業者が、若者を対象とした就職等に関するカウンセリングを実施する	カウンセリングを受けた若者が自らの適性に合った職種の採用試験を受ける	160 カウンセリングを受けた若者が、自らの適性に合った企業に就職する	カウンセリングを受けた若者の離職率が低下する
27			若者の就業支援事業(新社会人就職定着支援事業)	1,975	165 就職後3年目までの若手社員を中心としたコミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修等の実施を委託する	163・164 委託を受けた事業者が、就職後3年目までの若手社員を中心に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修等を実施する	研修を受けた若手社員の離職率が減少する	研修を受けた若手社員がいる企業の経営の安定化が図られる 研修を受けた若手社員のいる企業の所得が向上する	
28			雇用対策推進事業(魅力ある職場づくり推進事業)	1,096	169 中小企業を対象としたICT技術の活用を含めた働き方改革に関する研修会を開催を委託する	167・168 委託を受けた事業者が、中小企業を対象に、ICT技術の活用を含めた働き方改革に関する研修会を開催する	166 研修会に参加した中小企業が、ICT技術を活用した働き方改革を実施する	研修会に参加した中小企業のWLBが実現され、働きやすい職場になる 研修会に参加した中小企業の労働生産性が向上する	研修会に参加した中小企業の人材定着が図られるほか、若者から就職先として選ばれるようになる
29			若者の就業支援事業(ふるさとワーキングホリデー)	6,592	173 市外の大学生を対象としたインターンシップについて委託する	172 委託を受けた事業者が、ふるさとワーキングホリデーを実施する	171 ふるさとワーキングホリデーに参加した学生が採用試験を受ける	170 ふるさとワーキングホリデーに参加した学生が、面談した企業に就職する	
30			工業振興事業(盛岡AI・IoTプラットフォーム)	7,000	AI・IoTに関するプラットフォームを設置する	175 企業がプラットフォームに参加する	盛岡地域のIT企業・製造業の交流が促進される	地元企業の未来技術開発活動が盛んになる 174 未来技術開発に携わりたい若者が県内に就職する	
31			雇用対策推進事業(オンライン就職面接会)	2,200	179 市内内外の学生を対象としたオンライン就職面接会を開催する	178 参加企業が市内内外の学生に情報発信する	177 面接会に参加した学生が採用試験を受ける	176 面接会に参加した学生が、面談した企業に就職する	
32			工業振興事業(サテライトオフィス環境整備支援事業)	50,000	182 サテライトオフィス等の環境整備を希望する企業に対して補助金を交付する	181 補助金を受けた企業が盛岡市にサテライトオフィスを整備する	盛岡市で新たに雇用が生まれる	180 市内の若者が補助金を受けた企業に就職する	

【戦略プロジェクト評価(令和3年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト
期待する効果	盛岡で子どもを産み育てたいと思われるまちになる
重点取組期間	平成30～令和3年度
主管部名	子ども未来部
戦略プロジェクト統括マネージャー	藤澤 忠範 子ども未来部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
生産年齢人口の減少が進む中、活力ある社会を築いていくため、若い世代にとって暮らしやすい、子育てがしやすい、また女性にとって社会進出がしやすいなど、若い世代や女性が住み続けたいまちをつくること为本市の重要課題となっている。	コロナ禍にあっても、若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができるよう、親と子が地域や学校の中で孤立しないための取組や、困難を抱えた家庭への支援を行うとともに、子育ての相談や子どもの健全な成長を支援する体制を充実するなど、子育て環境の充実を図り、盛岡に住み続けたいと思える、安心して子育てのできるまちを実現する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
子育てをしている人 子ども	子育てしやすいと感じ、子育てに関する不安が少なくなる。 家庭環境や経済状況によらず、健やかに育つ。

目標指標の状況・評価(令和3年7月時点)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	問題点の要因分析
指標① 1月1日現在の待機児童数	人	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所、小規模保育所等の定員拡大を進め、令和3年4月に向けて114名の定員拡大を図った。 ・定員を超えて児童を受け入れた保育施設に対し、定員充足率に応じて必要とする経費の補助を行った。 ・保育士奨学金返還支援事業補助事業により166名の保育士に、保育士宿舎借上げ支援事業により25事業者・延べ38施設に、若手保育士処遇改善支援事業により27事業者・延べ41施設に補助を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所の整備や幼稚園の認定こども園への移行に伴う整備を行ったことが定員拡大に繋がった。 ・定員を超えた児童の受け入れに対する補助の基準日を年2回とすることで、施設が取り組みやすい状況になっている。 ・若手保育士が働き続けられるよう経済的支援の拡大を図ったことで、保育士確保に繋がっていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会進出が増加するとともに、育児休業後に職場復帰するなど、年度途中の保育所の入所希望が増加している。 ・定員を超えた児童の受け入れの実施状況と施設整備は密接な関係にある。 ・関東地方など都市部に就職先を求める保育士が増えている。
当初値(H28) 218 R3目標値 0		目指す方向 ↘	「指標の目指す方向」に向けた問題点		
			<ul style="list-style-type: none"> ・空き待ち児童も含めると、年間を通じた保育所入所希望者全員の入所には至っていない。 ・第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画における地域ごとの教育・保育の必要な量の見込みと、空き待ち児童の現状を比較しながら、施設整備等を行う必要がある。 ・保育所定員の拡大とともに、保育を担う保育士の確保を行う必要がある。 		
指標② まちづくり評価アンケート調査「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	△	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境の充実により、令和2年度には、年間を通じた待機児童0人を達成した。 ・児童の放課後の安全・安心な居場所づくりを進めた。 ・育児不安解消に向け相談窓口や産後ケアの充実を図った。 ・地域で子育てを見守る活動への支援を行った。 ・子育て世帯の経済的な負担軽減策を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所等の定員の拡大を図るとともに、保育士確保のための支援事業を行った。 ・児童センターの未設置学区への整備を進めた。 ・子ども家庭総合支援センターの体制強化、関係機関との連携強化を図るとともに、産後ケアの充実などにより、育児不安解消に努めた。 ・地域で子育てを見守る子ども食堂への支援や、子ども未来基金を活用し、個人・団体による子ども・子育て支援に関する事業を支援した。 ・第2子以降の保育料の無償化や各種医療費助成制度の拡充など、経済的な負担軽減策も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会進出に伴う共働き家庭の増加や核家族化の進行を背景に、子育て支援ニーズが多様化・複雑化しており、妊娠期・出産期から就学期に至るまでの切れ目のない支援と、社会全体で子育てを支える機運の醸成が求められている。 ・児童数が増加している盛南地区において、地域子育て支援拠点が不足している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、就労の機会が減るなどの状況が続く、ひとり親家庭に特に大きな困難が生じている。
当初値(H28) 74.0 R3目標値 80.0		目指す方向 ↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点		
			<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり評価アンケートにおける「子育てを楽しいと感じている」割合は、2年連続で概ね目標値に近い割合を維持しているが、多様化・複雑化している子育て支援ニーズを的確に捉えていく必要がある。 ・地域子育て支援拠点が不足している地区がある。 ・経済的基盤が弱く厳しい状況にあるひとり親家庭への支援の充実が必要である。 		

今後の展開(評価時点～令和4年度)

評価を踏まえた今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 定員を超えて児童を受け入れた保育施設に対し、定員充足率に応じて必要となる経費の補助を行う。 ☆2 保育士の確保に向けて、雇用環境の改善に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 関係機関の連携を深めるとともに、事業の拡充を進め、妊娠・出産・育児期における切れ目のない支援、ひとり親世帯や困窮世帯などへの支援、児童虐待の発生予防・早期発見、早期対応などを継続的に実施していく。 ☆2 児童数が増加している盛南地区への地域子育て支援拠点の開設を進める。

まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の指標③ 子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合			単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析														
			%	○																
当初値(H28)	15.2	R3目標値	42.0	目指す方向	↗															
<table border="1"> <caption>子育て支援策・支援活動が充実していると感じる市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値(H28)</td> <td>15.2</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>15.9</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>19.9</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>23.2</td> </tr> <tr> <td>R3目標値</td> <td>42.0</td> </tr> </tbody> </table>					年度	割合 (%)	当初値(H28)	15.2	H29	15.9	H30	19.9	R1	18.9	R2	23.2	R3目標値	42.0	<p>「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もりおか子育て応援プラザma*mall」について、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染症対策をとりながら開所し、遊び場の提供や相談支援対応を行った。(利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響がある前の1/3程度に減少) ・子ども未来基金を活用した補助事業により、10の個人・団体が子ども・子育て支援の活動を行った。 ・児童センターの児童厚生員配置基準の見直しを行い、年度ごとに利用児童数に応じた適正な配置を行っている。 ・令和2年度から第2子以降の保育料の無償化や学童クラブの第2子以降の利用料無償化、低所得世帯の利用料軽減などを実施している。 ・障がい児支援として、電話、来所による相談以外に保育園や幼稚園等への巡回訪問支援を行った。 	<p>特に寄与している点の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もりおか子育て応援プラザの開設により、子育て中の親子の交流が促進された。 ・子育て支援ニーズに関するアンケート調査では、充実を望む支援策として「子連れでもでかけやすく楽しめる場所」を求める声が70.1%と高いことから、施設を充実させて利用者を増やすことが、子育ての不安感や孤立感の解消につながるものと考えられる。 ・障がい児支援の巡回を実施することで、発達面で課題を持つ子の掘り起こしを行っている。
年度	割合 (%)																			
当初値(H28)	15.2																			
H29	15.9																			
H30	19.9																			
R1	18.9																			
R2	23.2																			
R3目標値	42.0																			
<p>「指標の目指す方向」に向けた問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合は令和2年度で増えたものの、目標値に達していない。 ・市内の全ての児童に対して健全な遊びの場を提供するため、児童センターが未設置の小学校区の解消を進める。 					<p>問題点の要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数が増加している盛南地区において地域子育て支援拠点が不足している。 ・児童センターが未設置の小学校区において、身近に遊べる施設がない(少ない)。 															

- ☆1 児童数が増加している盛南地区への地域子育て支援拠点の開設を進める。
- ☆2 子ども未来基金を活用した補助制度を継続し、個人・団体による子ども・子育て支援活動のさらなる促進を図る。
- ☆3 児童センターが未設置の小学校への整備を進める。
- ☆4 障がい児支援の相談員の人員を増やすことで、相談体制の強化を図る。

※進捗状況の評価(4段階) ☆:目標値に到達, ◎:目標値に向け順調に推移, ○:目標値に向けて推移, △:遅れが生じている

[重点2]ロジックモデルシート／みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト

(令和3年度評価用)

No.	H30	R1	R2	R3	事業名	R3予算(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
1	●	●	●	●	私立児童福祉施設整備助成事業(施設の増改築)	-	7 社会福祉法人等に対し保育所等の新設に係る補助金を交付する 8 社会福祉法人等に対し保育所等の増改築に係る補助金を交付する 9 社会福祉法人等に対し遊休物件を活用した小規模保育所等の整備に係る補助金を交付する	5 補助金を受けた社会福祉法人等が、保育所等を建設する 6 補助金を受けた社会福祉法人等が、保育所等の増改築を行う	3 補助金を受けて建設した保育所等に児童が入所する 4 補助金を受けて増改築した保育所等に、定員増加に応じた児童が入所する	2 年間を通じた盛岡市の保育所定員が増加する	1 待機児童が解消される
2	●	●	●	●	待機児童解消強化事業(定員弾力化補助金)	-	14 前年度以上に多くの児童を受け入れた保育所へ備品購入費や研修費の一部等に対し補助金を交付する 15 幼稚園教諭の資格を有する者が保育士資格を取得するために要した経費に対し補助金を交付する	12 保育所が定員以上に児童の受入れを実施する 13 認定こども園の幼稚園教諭の資格を有する者が、補助金を活用し、保育士資格を取得する	10 定員の弾力化に積極的に取り組む保育所が増加する 11 認定こども園において、保育が必要な児童の定員が増加する		
3	●	●	●	●	保育士確保対策事業(奨学金返還支援、宿舍借上げ支援、処遇改善支援)	-	19 対象の保育士について、奨学金返還費用の一部に対して補助金を交付する 20 対象の保育士の宿舍借上げ費用に対して補助金を交付する 21 対象の保育士の処遇改善費用に対して補助金を交付する	18 保育士の生活上の経済的負担が軽減される	16 保育士として就職する人が増加する 17 保育士の離職率が低下する		
4	●	●	●	●	特別保育事業(延長保育実施施設の拡充)	-	24 延長保育を実施する私立保育所や小規模保育所等に補助金を交付する	23 私立保育所や小規模保育所等が延長保育を実施する	22 延長保育利用児童が増加する		
5	●	●	●	●	子ども・子育て支援事業計画推進事業	-	26 子ども・子育て会議を開催する	子ども・子育て支援の取組に対して、委員から意見・提言が出される	子ども・子育て支援の取組が、委員の意見・提言が生かされた計画に改善される	子ども・子育て支援の取組が、委員の意見・提言が生かされた計画どおりに進む	25 「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実している」と感じる親が増加する
6	-	-	-	●	私立児童福祉施設運営費助成事業(医療的ケア児保育支援事業)	7,338	30 医療的ケアを行う看護師を配置しようとする保育園に対して財政支援を行う 31 保育士が喀痰吸引等の研修を受講する際の財政支援を行う	28 保育園に医療的ケアを行う看護師が配置される 29 保育士が喀痰吸引等の研修に参加する	医療的ケア児を受け入れ可能な保育園が増加する	27 医療的ケア児が保育園へ通えるようになる	
7	-	-	-	●	特別支援教育事業(医療的ケア学校看護師の配置)	4,460	33-34 学校へ医療的ケアを行う看護師を配置する	学校が医療的ケア児を受け入れられるようになる	32 医療的ケア児が通学できるようになる	一人一人の教育のニーズに応じた学びの場を提供できる	
8	●	●	●	●	児童館管理運営事業(児童厚生員の適正配置)	26,832	36 指定管理者に対し、職員配置の適正化に必要となる経費を支出する	35 指定管理者が、職員配置の適正化に向けて職員の雇用等を行う	児童センター、児童館を利用する児童の健全育成が図られる	児童センター、児童館を利用する児童の親が、安心して仕事ができる	
9	-	●	●	●	児童館整備事業(仮称)見前第二児童センター整備事業、(仮称)向中野児童センター整備事業、(仮称)太田児童センター整備事業	211,212	40 見前小学校区に児童センターを整備する 41 向中野小学校区に児童センターを整備する 42 太田小学校区に児童センターを整備する	37 見前小学校等に児童のうち、放課後の居場所が必要な児童が児童センターを利用する 38 向中野小学校等に児童のうち、放課後の居場所が必要な児童が児童センターを利用する 39 太田小学校等に児童のうち、放課後の居場所が必要な児童が児童センターを利用する	見前小学校区における放課後の児童の居場所が確保される 向中野小学校区における放課後の児童の居場所が確保される 太田小学校区における放課後の児童の居場所が確保される		
10	-	●	●	●	児童福祉施設環境改善事業(公立施設エアコン設置)	-	43 公立保育所及び児童センターにエアコンを設置する 44 私立保育所及び放課後児童クラブに対しエアコン設置費用の一部を助成する	夏季における公立保育所及び児童センターの室内温度環境が改善される 夏季における私立保育所及び放課後児童クラブの室内温度環境が改善される	公立保育所及び児童センターを利用する子どもの熱中症になる危険性が低くなる 私立保育所及び児童クラブを利用する子どもの熱中症になる危険性が低くなる	子どもの病気や怪我への対応に関する不安が軽減される	
11	-	●	●	●	小中学校等環境整備事業(公立施設トイレの洋式化)	-	45 市立小中学校等のトイレを洋式化する	小中学校等で過ごす児童生徒のトイレ環境が改善される	小中学校等で過ごす児童生徒が、トイレを我慢しなくなる 小中学校等で過ごす児童生徒間における感染症の蔓延が減少する	小中学校等で過ごす児童生徒の病気や健康障害が減少する	
12	●	●	●	●	小児救急転送病院事業	-	47 小児重症患者を受け入れる小児救急転送病院等に対し、運営費の補助を行う	46 医療機関が小児医療を安定的・継続的に提供する	子どもがいつ病気になっても安心して診療を受けられる		
13	●	●	●	●	夜間急患診療所管理運営事業	-	49 夜間急患診療所を設置・運営し、年中無休で、午後7時から11時30分まで診療を行う	48 年中無休の夜間の救急医療体制(内科・小児科)が確保される			
14	●	●	●	●	予防接種事業(幼児等インフルエンザ予防接種補助事業)	-	51 インフルエンザ予防接種を実施した医療機関に対し、経費の一部を補助する	50 保護者の費用負担が軽減され、予防接種率が向上する	子どものインフルエンザの重症化及び感染拡大が防止される		
15	-	●	●	●	母子保健事業(新生児聴覚検査事業)	8,529	53 新生児聴覚検査を受けた児の保護者に対して、費用の一部を助成する	52 保護者の費用負担が軽減され、新生児聴覚検査受診者が増加する	先天性の聴覚障害が早期に発見され早期に療養を開始することができる		
16	●	●	●	●	医療費給付事業(妊産婦、乳幼児、小学生、中学生)	-	54-1 乳幼児の保険診療分の医療費を全額助成する 54-2 小学生・中学生の保険診療分の医療費を一部助成する 54-3 妊産婦の保険診療分の医療費を一部助成する	乳幼児の保護者について、保険診療分の医療費負担が無くなり、早期適切な受診が図られる 小学生・中学生の保護者について、保険診療分の医療費負担が軽減され、早期適切な受診が図られる 妊産婦について、保険診療分の医療費負担が軽減され、早期適切な受診が図られる	乳幼児の保健の向上と福祉の増進が図られる 小学生・中学生の保健の向上と福祉の増進が図られる 妊産婦の保健の向上と福祉の増進が図られる	妊産婦の病気や怪我への不安が軽減される	
17	-	-	●	●	障がい者相談支援事業(児童に特化した相談窓口の設置)	4,800	56 障がい児に特化した一般相談の実施を委託する	55 委託を受けた事業者が、一般相談を実施し、児童とその家族が抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する	障がい児やその家族が希望する暮らしが実現する 障がい児が自立した日常生活や社会生活を送ることができるようになる	障がい児やその家族の、日々の暮らしや将来の人生設計に関する不安が軽減される	
18	-	-	●	●	私立児童福祉施設等運営事業(第2子以降の保育料無償化)	-	58 認可保育所を利用する年収550万円未満相当世帯の第2子以降の子どもについて、市が定める利用者負担額(保育料)を無償とする。	57 無償化の対象となる子どもの保護者が保育料を支払う必要がなくなる	認可保育所に2人以上の子を預ける、年収550万円未満相当世帯の保育料に係る経済的負担が軽減される	年収550万円未満相当世帯において、子育てによる生活の不安定化が軽減される	
19	-	-	●	●	私立児童福祉施設等運営費助成事業(副食費補助)	-	60 私立児童福祉施設に、年収550万円未満相当世帯の副食費を軽減するための補助金を交付する	59 私立児童福祉施設が、年収550万円未満相当世帯の副食費を軽減する	私立児童福祉施設に子を預ける、年収550万円未満相当世帯の副食費に係る経済的負担が軽減される		
20	-	-	●	●	認定こども園等運営費給付事業(第2子以降の保育料無償化)	-	62 認定こども園・小規模保育所を利用する年収550万円未満相当世帯の第2子以降の子どもについて、市が定める利用者負担額(保育料)を無償とする。	61 認定こども園・小規模保育所等が年収550万円未満相当世帯の第2子以降の保育料を無償化する	認定こども園・小規模保育所等に2人以上の子を預ける、年収550万円未満相当世帯の保育料に係る経済的負担が軽減される		
21	-	-	●	●	保育所管理運営事業(第2子以降の保育料無償化)	-	64 公立保育所を利用する年収550万円未満相当世帯の第2子以降の子どもについて、市が定める利用者負担額(保育料)を無償とする。	63 無償化の対象となる子どもの保護者が保育料を支払う必要がなくなる	公立保育所に2人以上の子を預ける、年収550万円未満相当世帯の保育料に係る経済的負担が軽減される		
22	-	-	●	●	子育てのための施設等利用給付事業(認可外保育施設の利用給付、幼稚園副食費補助)	-	66 認可外保育施設を利用する年収550万円未満相当世帯の第2子以降の子どもの保護者に対して、保育料 68 幼稚園に、年収550万円未満相当世帯の副食費を軽減するための補助金を交付する	65 無償化の対象となる子どもの保護者が補助金を受領する。 67 幼稚園が、年収550万円未満相当世帯の副食費を軽減する	認可外保育施設に2人以上の子を預ける、年収550万円未満相当世帯の保育料に係る経済的負担が軽減される 幼稚園に子を預ける、年収550万円未満相当世帯の保護者の副食費に係る経済的負担が軽減される		

No.	H	R	R	R	事業名	R3予算 (千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
23					地域児童クラブ等運営事業(第2子以降の利用料の助成、低所得世帯の利用料軽減)	13,985	70 委託先の放課後児童クラブに、年収550万円未満相当世帯の第2子以降の利用料を無償化するための補助金を交付する 72 委託先の放課後児童クラブに、低所得世帯の利用料を軽減するための補助金を交付する	69 委託先の放課後児童クラブが、年収550万円未満相当世帯の第2子以降の利用料を無償化する 71 委託先の放課後児童クラブが、低所得世帯の利用料を軽減する	放課後児童クラブに2人以上の子を預ける。年収550万円未満相当世帯の利用料に係る経済的負担が軽減される 放課後児童クラブに子を預ける。低所得世帯の保護者の利用料に係る経済的負担が軽減される		
24					就学援助事業(小学校)(学用品費の入学前支給)	9,855	74 経済的に困難な状況の児童の保護者に対して、小学校に入学する際に必要な費用の支給を、入学準備の時期に行う	73 経済的に困難な状況の児童の保護者が、小学校に入学する際に必要な学用品等を購入する	経済的に困難な状況の児童に対する教育の機会均等が図られる		経済的に困難な状況の児童が、学校生活を楽しく元気に送ることができる
25					就学援助事業(中学校)(学用品費の入学前支給、クラブ活動費支給)	24,005	76 経済的に困難な状況の生徒の保護者に対して、中学校に入学する際に必要な費用の支給を入学準備の時期に行い、入学後はクラブ活動費の支給を行う	75 経済的に困難な状況の生徒の保護者が、中学校に入学する際に必要な学用品等やクラブ活動に必要な用具等を購入する			
26					子ども家庭総合支援センター事業	22,042	80 子ども家庭総合支援センターを運営するとともに、児童虐待対応に係る関係機関との連携体制を構築する	79 児童家庭相談に対し適切な対応がとられる	78-1 児童虐待が未然に防止される 78-2 児童虐待が早期に発見され、早期に対応される		77 児童虐待が減少する
27					子育て世代包括支援センター事業	10,427	81 妊産婦や子育て家庭の相談を窓口や電話等で実施する 82 支援が必要なハイリスク妊産婦に対し家庭訪問を行う	妊産婦等が子育てに関する情報提供を受ける	妊産婦等が、必要な子育て支援事業を利用する	妊産婦等の心身の健康状態や新生児、幼児の養育環境が改善される	
28					母子保健事業(乳児家庭全戸訪問等事業)	5,611	84 保健師、助産師、在宅訪問員が、生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問する	乳幼児のいる家庭の養育環境等が把握される	83 支援が必要な妊産婦・乳幼児のいる家庭が、適切な支援を受ける		
29					子ども家庭総合支援センター事業/養育支援訪問(家事援助)事業	1,188	86 食事や衛生環境に課題を抱える子育て家庭について、具体的な支援プランを作成し、ヘルパー派遣による訪問支援を行う	食事や衛生環境に課題を抱える子育て家庭が、家庭環境改善に向けた家事支援を受ける	85 食事や衛生環境に課題を抱える子育て家庭の衛生状況や子どもの食事環境が改善される		
30					母子保健事業(産婦健康診査事業)	16,651	89 産婦健康診査の実施を県内の医療機関に委託する	88 委託を受けた医療機関が、産婦健康診査(2週間・1か月)を実施する	87 産後うつなど、支援が必要な産婦が把握される		
31					母子保健事業(産後ケア事業)	1,545	91 産後うつなど、支援が必要な産婦への心身のケアや育児のサポートを行う業務を、助産師に委託する	90 産後うつなど、支援が必要な産婦が、心身のケアや育児のサポートを受ける	産後うつ症状が改善されるなど、産婦が安心して健やかに産後の生活が送れるようになる		
32					子育て応援プラザ運営事業	27,154	94 子育て応援プラザを運営する	92 子育て中の親子が子育て応援プラザを利用する	子育て中の親の気分転換が図られる 子育て中の親同士の子育てに関する悩みや不安などについての情報交換が図られる		
33					子ども未来基金事業	16,069	個人・企業等に対して、寄附の呼びかけを行う 97 企画提案方式により、市民・団体等が行う子ども・子育て支援の活動の費用を助成する	95 個人企業等が、子ども未来基金に対して寄附を行う 96 助成を受けた市民・団体が、子ども・子育て支援の活動を行う	民間による子ども・子育て支援の活動が活発になる		盛岡市全体で子ども・子育てを支援する機運が高まる
34					子育て世帯支援型賃貸住宅改修事業	-	100 空き家を子育て世帯専用の賃貸住宅に改修した物件所有者等に対し、経費の一部を補助する	99 物件所有者等が、子育て世帯専用の賃貸住宅に改修する	98 子育て世帯が、子育て世帯専用の賃貸住宅に入居する		子育て世帯の住まいに関する不安・ストレスが軽減される
35					ひとり親家庭等日常生活支援事業	1,216	102 ひとり親家庭へ家庭生活支援員を派遣できる団体に委託をする	101 家庭生活支援員がひとり親家庭の自立を支援する	ひとり親世帯が自立する		就学等のための支援が受けられることにより、生活の安定が図られる
36					支援対象児童等見守り強化事業	8,800	104 子ども食堂を運営している団体へ補助金を交付する	103 子ども食堂は、食事提供の際に、子ども等の状況把握を行い、必要に応じて市へ報告する	子ども食堂を利用している児童が、きめ細やかな支援を受けられる		不安や問題を抱える児童が減り、健全な育成が図られる
37					学習支援事業	23,422	108 就学支援相談員を配置する 109 学習の場の設置について、団体へ委託する	106 相談員が進学等について相談支援を行う 107 市内3会場、週1回のペースで、団体が中学生を対象に学習の場を提供する	子どもの将来について、不安が軽減され、進路が明確になる 学力及び学習意欲が向上する		105 支援を受けた子どもたちが望んだ進路を実現する

【戦略プロジェクト評価(令和3年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	2020あつまる・つながるまちプロジェクト
期待する効果	観光やスポーツを通して国内外から多くの人を訪れ、また訪れたいまちになる
重点取組期間	平成30～令和3年度
主管部名	交流推進部
戦略プロジェクト統括マネージャー	伊瀬谷 渉 交流推進部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
<p>まちの活力を維持していくため、定住人口の維持を図るとともに、本市の魅力である恵まれた食や自然景観などの観光資源を生かした誘客の促進や若者の活躍の場の創出、スポーツを新たな機軸とするインバウンド獲得など、交流人口の増加を図り、まちに賑わいを生み出していくことが本市の重要課題となっている。</p> <p>2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により東京2020オリンピック・パラリンピックを始めとしたイベントや交流事業が中止・延期となったが、2021年は東京2020オリンピック・パラリンピックが予定されているほか、東北デスティネーションキャンペーンが予定されており、これらを契機に盛岡の魅力の発信や、交流人口の増加、盛岡との継続的な関係性の構築を推進するなど、地方への人の流れを創出する。</p>	<p>本市を訪れる旅行者が満足し、選ばれる観光地域となるため、歴史や自然、文化などの恵まれた観光資源を生かし、ブラッシュアップするとともに、様々な媒体を通じて本市の魅力を積極的にプロモーションします。また、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成や、コロナ禍におけるオンラインや感染予防に留意したイベントの開催、感染リスクを回避する新しい旅のエチケットの徹底による安心かつ盛岡ならではの観光の実現により、交流人口を増やし、魅力があふれるまちづくりを推進します。また、一時的な滞在にとどまらず、盛岡との継続的な関係性の構築から移住・定住につなげるなど、盛岡への新たな人の流れの創出を進めます。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
国内外の人 市民	盛岡に来てもらう(交流人口が増える)。 盛岡に愛着を持ってもらう。

目標指標の状況・評価(令和3年7月時点)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	観光客入込数	単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	
		万人回	△	特に寄与している点の要因分析	
当初値(H25)	472	R3目標値	504	目指す方向 ↑	
<p>※平成25年度の実績値を基準に目標値を設定している</p>					
<p>・東北DC(4月～9月)の特別企画として、つなぎ温泉の宿泊施設で盛岡さんさ踊りの常設公演を開催(4/1～10/11までの期間で、全186回の公演予定)し、伝統芸能の披露による誘客の推進に取組んでいる。</p> <p>・東北DC(4月～9月)期間中の観光客を対象として、盛岡駅を起点とした無料ガイドによる「おもてなしガイド派遣事業」を実施し、まち歩きによる盛岡の魅力の発信と再訪につなげる取組を行っている。</p> <p>・移住相談体制の拡充や、関係人口を基軸とした移住・定住・交流人口対策事業「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、盛岡の暮らし体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことができた。</p> <p>・いしがきミュージックフェスティバルは、令和2年度はイベントを中止したが、新聞の全面広告の掲載や特大看板幕の設置及びのぼり旗の設置により次年度以降の開催につなげた。</p>				<p>・コロナ禍において、海外はもとより、国内においても移動の制限や自粛の意識が高まる中、夏祭りのイメージがある盛岡さんさ踊りを地域の伝統芸能としてナイトタイムコンテンツとして取り入れることにより、域内観光需要の維持につなげている。</p> <p>・新幹線利用による観光客を対象とした無料のガイドツアーにより、気軽に参加できる盛岡の魅力を伝える機会の創出につなげている。</p> <p>・「盛岡という星で」等のプロモーションにあたり、民間事業者などと連携し、ターゲットを明確にしたプロモーションの方向性を構築した上で実施した。</p> <p>・いしがきミュージックフェスティバルは、天候に左右されるリスクはあるが、アクセス性に優れた街中での開催という特色があり、地元の若者が全国に向かってふるさと盛岡を誇れるマチナカフェスとして定着し、来場者数が伸びている。</p>	
<p>「指標の目指す方向」に向けた問題点</p> <p>・コロナ禍により、東北DCによる誘客の増加が見込まれないほか、つなぎ温泉での「盛岡さんさ踊りの常設公演」は、体験メニューが実施できず、事業効果が十分に発揮できない状況である。</p> <p>・「おもてなしガイド派遣事業」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から一時的に事業を中断するなど、指標の向上につながる取組が十分にできない状況である。</p> <p>・東北六市連携による首都圏プロモーションは、コロナ禍により7月までに予定していたプロモーションが全て中止となった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「盛岡という星で」プロジェクトのメインターゲットである東京圏からの来訪者数を増やすことが出来なかった。</p> <p>・いしがきミュージックフェスティバルは、メイン会場である盛岡城跡公園の使用制限や事業継続と誘客の拡大のため、資金確保が課題となっている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会場を変更するなど、従来とは異なる形で運営することも視野に入れなければならない。</p>				<p>問題点の要因分析</p> <p>・感染収束の時期が依然として見通せず、国内におけるワクチン接種の進捗による感染者数の推移や感染拡大の波によっても移動の制限や自粛傾向も左右される状況であることから、観光需要の回復時期も見通せない状況である。</p> <p>・関係人口との交流を行うにあたり、オンラインの活用等を図ったものの、県外への移動が制限された影響を受けた。</p> <p>・いしがきミュージックフェスティバルは、史跡である盛岡城跡公園の石垣修復工事や発掘調査等及び新型コロナウイルス感染症の影響により、会場の設営や利用に工夫が必要になっている。また会場の設営の変更に伴い、事業費が増加しており、実行委員会においても新たな財源確保のためクラウドファンディングを実施している。</p>	

今後の展開(評価時点～令和4年度)

評価を踏まえた今後の取組
<p>☆1 東北DCの誘客促進事業であるつなぎ温泉での「盛岡伝統芸能常設公演事業」や「おもてなしガイド派遣事業」については、感染防止対策を取りながら、東北DCの終了まで継続して実施する。</p> <p>☆2 岩手もりおか復興フェスタは、これまで同時開催していた盛岡広域商工団体が主催する「もりおか広域まるごとフェア」の開催の可否が未定であるが、他のイベントとの同時開催についても検討しつつ、感染状況に応じて開催の可否を決定することとする。令和4年度については、開催時期、会場等の変更を含めて、継続開催に向けて関係団体等と協議、調整する。</p> <p>☆3 東北六都市連携広域観光プロモーション事業は、令和3年度に計画している事業の実施が困難な状況であるが、東北絆まつりの枠組みを生かした祭りをコンテンツとする有効なプロモーションであることから、令和4年度以降の継続を見込んで、海外を含めた有効な広域連携による観光プロモーションを各市と検討し、事業計画に取り組む。</p> <p>☆4 「盛岡という星で」等のプロモーションでは、訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。</p> <p>☆5 オンラインなどを活用しながら、東京圏の移住希望者と交流を図りながら、アフターコロナを見据え、関係人口交流拠点を活用した受け入れ態勢を整える。</p> <p>☆6 いしがきミュージックフェスティバル実行委員会への負担金による支援を継続する。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、大規模なイベントの取り扱いについて国や県の動きを注視していく必要がある。</p>

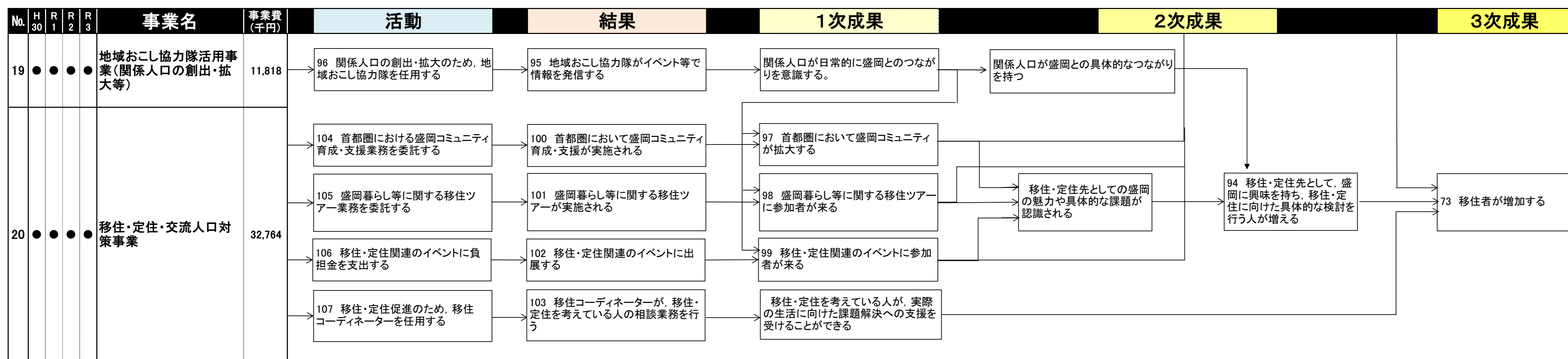
指標② 外国人観光客入込(宿泊客)数		単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	<p>☆1 海外定期便の就航の再開時期や国内における外国人観光客の受入れ体制などを注視しながら、インバウンドの回復期に向けて本市において入込数が多い台湾や中国をターゲットとした盛岡広域によるプロモーションについて検討し、実施に向けた取組を行う。</p> <p>☆2 ポストコロナにおける観光地や宿泊施設などにおけるインバウンドの受入れにあたっての感染防止対策など、国の動向を注視し、必要な環境整備に取り組む。</p>
当初値(H28) 23,649 R3目標値 50,000 目指す方向 ↗		人回	△	「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析	
				・特になし。		
				・コロナ禍により、海外渡航の制限が継続されている。	<p>・外国人観光客の有力な交通手段となる花巻空港の国際定期便の就航再開の見通しが立たない状況になっている。</p> <p>・国内外での新型コロナウイルス感染症の感染まん延により、訪日客の受入れ時期が見通せない状況となっている。</p>	
指標③ 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」		単位	進捗	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	<p>☆1 「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市外住民に向けた効果的なプロモーションを行うためにマーケティング及び戦略的プロモーションの庁内への定着を図る。</p> <p>☆2 訴求する相手方(ターゲット)の設定や、ターゲットに適した情報発信手法など、マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションを実施する。</p> <p>☆3 新型コロナウイルスの影響による地方への移住ニーズの高まりに対応するため、移住定住・交流人口対策事務局を設置し、部局横断的な移住等支援体制の強化を図る。</p> <p>☆4 関係人口が盛岡での具体的な取組にかかわるための機会を創出する。</p> <p>☆5 地元の高中生や大学生が地域課題を知る機会などを提供する。</p> <p>☆6 中心市街地に関係人口交流拠点「盛岡という星で BASE STATION」を整備し、官民連携により上記の取組を推進する。</p> <p>☆7 令和2年度に国土交通省が整備した船着場を活用し、北上川に隣接する木伏緑地を含む河川空間や大慈寺・鉈屋町地区と連携した舟運イベントや運航体験を開催し、まちなか観光の推進と中心市街地の活性化を図るとともに、盛岡の新たな魅力を発信する。</p> <p>☆8 安全・安心で持続可能な舟の運航ができるよう、河川管理者や地元団体と協力し、河川水位の確保や河川内の支障構造物の改良、運営事業者の体制強化を図る。</p>
当初値(H28) 117 R3目標値 40 目指す方向 ↗		位	△	「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析	
				<p>・市内の様々なプロモーションにおいてマーケティングや戦略的な情報発信を取り入れることが出来るよう、セミナーや情報交換を行い連携を図ることで、市内の情報発信力の向上を図ることが出来た。</p> <p>・ふるさと納税のデジタルプロモーション及び効果測定を実施し、寄付者数の増加に貢献できた。</p> <p>・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトによる、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成を行うことができた。</p> <p>・新たな観光資源としての舟運実現に向けて、木造舟「もりおか丸」等の運航実験(2回)や舟運講演会(1回)、新たに国土交通省が整備する船着き場の現地調査を実施し、安全・安心な舟の運航に向けた取組ができた。</p>	<p>・希望する市内各課とマーケティング研修講師との情報交換を個別に行うことで、個別事業の課題等を共有し、事業間の連携を図ることが出来た。</p> <p>・様々なプロモーションを実施する際に、訴求する相手方(ターゲット)を設定したことで、効果的な訴求につながった。</p> <p>・地元団体、国土交通省、市が構成団体となった舟運実行委員会により舟運実現に向けた組織強化が図られ、コロナ禍ではあったが、運航実験(2回)、舟運講演会(1回)開催できたことによる。</p>	
				<p>・情報発信を効果的に行うためのマーケティング研修や情報交換が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、想定回数実施できなかったほか、対面での実施が出来なかった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響のため、舟運イベント「北上川フェスタINMORIOKA」を中止したことから、コロナ禍における運航体験やイベントの開催に向けた対策が必要である。</p> <p>・河川水位の確保や河川内の支障構造物の改良、持続可能な運営体制が必要である。</p>	<p>・情報発信を効果的に行うためのマーケティング研修や情報交換新型コロナウイルスの影響を予見したスケジュールの設定を行えなかった。</p> <p>・盛岡市新型コロナウイルス感染症対策本部等の指導の下、感染防止対策を講じた運航体験や舟運イベントの開催の検討が必要である。</p> <p>・河川管理者や地元団体と協力し、安全・安心な航路の確保や運営事業者の体制強化が必要である。</p>	

※進捗状況の評価(4段階) ☆:目標値に到達, ◎:目標値に向け順調に推移, ○:目標値に向けて推移, △:遅れが生じている

[重点3] ロジックモデルシート/2020あつまる・つながるまちプロジェクト

(令和3年度評価用)

No.	H	R	R	R	事業名	事業費(千円)	活動	結果	1次成果	2次成果	3次成果
1		●	●	●	生涯スポーツ推進事業/競技大会等開催事業(いわて盛岡シテマラソン、スポーツクライミング第4回コンバインドジャパンカップ)	41,000	7 「いわて盛岡シテマラソン実行委員会」に負担金を支出する 8 「スポーツクライミングコンバインドジャパンカップ実行委員会」に負担金を支出する	5 「いわて盛岡シテマラソン実行委員会」が大会を実施する 6 「スポーツクライミングコンバインドジャパンカップ実行委員会」が大会を実施する	2 市民や全国からの参加者が「いわて盛岡シテマラソン」に出場する 3 全国の選手が「スポーツクライミングコンバインドジャパンカップ」に出場する 4 全国のファンが「スポーツクライミングコンバインドジャパンカップ」を観戦しに来盛する	1 スポーツに関連し、盛岡を訪れる人が増加する	交流人口が増加する
2	●	●	●	●	地域おこし協力隊活用事業(スポーツを通じた盛岡広域の魅力発信)	1,723	11 盛岡広域の魅力国内外に発信するため、地域おこし協力隊を任用する	10 地域おこし協力隊員が、盛岡広域スポーツコミッションと連携しながら、盛岡広域の魅力の掘り起こしを行い、HPやSNSを通じて国内外に発信する	9 HPやSNSにより、スポーツを通じて、盛岡広域に関心をもつ人が増える		
3	●	●	●	●	盛岡広域連携スポーツツーリズム推進事業(カナダの水球・7人制ラグビー、マリ共和国の柔道事前キャンプ受入れ)	62,635	20 盛岡広域スポーツコミッション負担金を支出する 21 東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、水球カナダ・クライミングカナダの事前キャンプ 22 東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ラグビーカナダの事前キャンプ受入れを実施す 23 東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、マリ共和国柔道の事前キャンプ受入れを実施す 24 RWC2019公認チームキャンプ地として、地域交流計画を策定し、交流事業を実施する	16 盛岡広域が連携して、合宿や大会の誘致活動を行う 17 東京2020事前キャンプに水球カナダ・クライミングカナダの選手・関係者が訪れる 18 東京2020事前キャンプにラグビーカナダの選手・関係者が訪れる 19 東京2020事前キャンプにマリ共和国柔道の選手・関係者が訪れる 26 RWC2019関連の交流事業に市民が参加する	12 合宿や大会の誘致が成功し、選手・関係者や観客が訪れる 13 東京2020水球カナダ・クライミングカナダの事前キャンプの交流事業に観客が訪れる 14 東京2020ラグビーカナダの事前キャンプの交流事業に観客が訪れる 15 東京2020マリ共和国柔道の事前キャンプの交流事業観客が訪れる 25 盛岡でRWC2019のチームキャンプを行った国からの来盛者数が増加する	24 外国人観光客入込(宿泊客)数が増加する	
4	●	●	●	●	姉妹都市等国際交流事業(ホストタウン機運醸成事業、ビクトリア姉妹都市提携35周年記念事業、花蓮市友好都市交流事業)	11,817	29 ホストタウン事業に関する周知イベント等を実施する 30 「盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年記念事業実行委員会」に負担金を支出する 31 盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年を記念し、両市長による公式訪問を実施する 32 記念碑の建立と除幕式の会場設営について委託を行う	27 ホストタウン事業の周知イベント等に市民が参加する 28 民間が主体となった「盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年記念事業」が実施される 31 記念碑が建立され、除幕式が開催される	ホストタウン事業について市民の理解や関心が深まり、市民の国際感覚の醸成が図られる 姉妹都市ビクトリア市との交流が盛んになり、市民の国際感覚やシビックプライドの醸成が図られる 花蓮市との友好都市交流について周知が図られるとともに、市民の理解や関心が高まり、国際感覚の醸成が図られる。	国際交流活動を支える新たな担い手の育成や、交流の場の創出が促進され、外国人観光客の受入環境の	
5	●	●	●	●	広域観光推進事業/外国人観光客誘致推進事業(外国人観光客等受入環境整備・情報発信事業)		37 外国人観光客の受入態勢の整備として、City Wi-Fi設置を委託する 38 台湾国際旅行展・タイ国際旅行フェアに参加する	35 委託を受けた事業者等が、City Wi-Fiを設置する 36 台湾国際旅行展・タイ国際旅行フェアで盛岡のプロモーションを行う	City Wi-Fiを利用する外国人観光客が増加する 34 台湾・タイからの入り込みが増加する	33 外国人観光客の来盛満足度が向上する	
6	●	●	●	●	観光客誘致宣伝事業(東北六都市連携広域観光プロモーション事業)	3,000	41 東北六都市連携事業負担金を支出する	39 6市が連携して首都圏等で盛岡のプロモーションを行う 40 6市が連携して海外で盛岡のプロモーションを行う	首都圏等で盛岡のプロモーションを受けた外国人が、盛岡を訪れる 海外で盛岡のプロモーションを受けた外国人が、盛岡を訪れる		
7		●	●	●	観光団体育成強化事業(盛岡伝統芸能常設公演事業)	5,700	44 「つなぎ温泉観光協会」に盛岡伝統芸能常設公演を実施する補助金を交付する	43 「つなぎ温泉観光協会」が、つなぎ温泉で、盛岡さんさ踊りを中心とした市の伝統芸能を常設公演する	42 つなぎ温泉に宿泊する外国人観光客が増加する		
8	●	●	●	●	MICE(マイス)誘致推進事業		48 「(公財)盛岡観光コンベンション協会」に補助金を支出する	47 「(公財)盛岡観光コンベンション協会」がMICE(マイス)助成の募集を行い、申請を受ける	46 MICE(マイス)開催者が「(公財)盛岡観光コンベンション協会」からの助成を受けてMICEを開催する	45 MICE(マイス)に関連し、盛岡を訪れる人が増加する	
9	●	●	●	●	地場・伝統産業振興事業(盛岡市の物産と観光展開催事業)	3,964	52 「盛岡市の物産と観光展実行委員会」に負担金を支出する	50-51 「盛岡市の物産と観光展実行委員会」が札幌市、熊谷市で物産展を開催する	物産展をきっかけに、盛岡を訪れる人が増加する	49 国内からの観光客(観光客入込数)が増加する	
10	●	●	●	●	地場・伝統産業振興事業(盛岡デー開催事業)	3,272	55 「盛岡デー実行委員会」に負担金を支出する	53-54 「盛岡デー実行委員会」が東京とうるま市で盛岡デーを開催する	盛岡デーをきっかけに、盛岡を訪れる人が増加する		
11	●	●	●	●	観光客誘致宣伝事業/大型観光キャンペーン事業(岩手もりおか復興フェスタ開催事業、東北DC)	2,337	60 「東北絆まつり実行委員会」に負担金を支出する(コロナによる中止) 61 東北絆まつり盛岡さんさ踊り派遣負担金を支出する(コロナによる中止) 62 「岩手もりおか復興フェスタ実行委員会」に負担金を支出する	58 「東北絆まつり実行委員会」が東北絆まつりを開催する 59 「岩手もりおか復興フェスタ実行委員会」が岩手もりおか復興フェスタを開催する	56 東北絆まつりに、多くの観光客が訪れる 57 岩手もりおか復興フェスタに、多くの人が訪れる		
12	●	●	●	●	いしがきミュージックフェスティバル支援事業	3,000	67 「いしがきミュージックフェスティバル実行委員会」に開催負担金を支出する	66 「いしがきミュージックフェスティバル実行委員会」が、いしがきミュージックフェスティバルを開催する	65 いしがきミュージックフェスティバルに、多くの人が訪れる		
13	●	●	●	●	芸術文化活動振興事業(盛岡国際俳句大会の開催)	5,600	70 「盛岡国際俳句大会実行委員会」に負担金を支出する	69 「盛岡国際俳句大会実行委員会」が盛岡国際俳句大会を開催する	68 盛岡国際俳句大会に、多くの参加者や観覧客が訪れることにより盛岡の魅力発信につながる		
14	●	●	●	●	盛岡三大種普及事業	195	75 「盛岡三大種普及協議会」に負担金を支出する	72 「盛岡三大種普及協議会」が全日本わんこそば選手権を開催する 74 「盛岡三大種普及協議会」が盛岡三大種に関する広報紙の作成やHP等を活用した情報発信を行う	71 全日本わんこそば選手権に来客がある 盛岡三大種の魅力が伝わる	盛岡を愛する人が増える	
15	●	●	●	●	芸術文化活動振興事業(盛岡文士劇東京公演)		78 「盛岡文士劇東京公演実行委員会」に負担金を支出する	77 「盛岡文士劇東京公演実行委員会」が、友好都市を提携した文京区で盛岡文士劇東京公演を開催する	76 盛岡文士劇東京公演に、多くの観覧客が訪れることにより盛岡の歴史文化などの魅力発信につながる		
16	●	●	●	●	盛岡ブランド確立事業	11,577	81 盛岡ブランドフォーラムを開催する 82 盛岡ブランドの広告宣伝を委託する 83 職員のマーケティング手法の定着推進に向けた指導等を委託する 84 職員のプロモーション能力向上に向けた指導等を委託する	79 盛岡ブランドフォーラムに市民等が参加する 80 プロモーション素材を活用して盛岡ブランドの広告・宣伝を実施する 85 庁内に対し、マーケティングの基礎知識や手法の解説、分析ツールの提供・効果測定・実践指導等を行う 86 庁内に対しプロモーションツール作成指導や研修を行う	盛岡ブランドフォーラムの参加者における盛岡ブランドの認知度が向上する 市外在住者における盛岡に関する情報接触割合が向上する 職員がマーケティング手法を取り入れた戦略的な情報発信を行うようになる	職員の戦略的な情報発信により、市民における盛岡ブランドの認知度が向上する 職員の戦略的な情報発信により、市外在住者における盛岡ブランドの認知度が向上する	
17	●	●	●	●	地場・伝統産業振興事業(特産品ブランド振興事業)	132	88 盛岡ブランド品認定会議を開催する	86 盛岡ブランド品が認定される 87 盛岡プレミアムブランド品が認定される	85 ブランド品に認定された地場・伝統産業の商品が全国にアピールされる		
18	●	●	●	●	盛岡地区かわまちづくり事業	3,030	92 「舟運実行委員会」に負担金を支出する 93 舟運導入可能性調査を行う	90 「舟運実行委員会」が試作舟による社会実験を行う 91 舟運導入に向けた具体的な検討が進む	89 社会実験に市民が参加する 舟運事業の実施に向けた機運が高まる		



(余白)

ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡を目指して
…進めています, 自治体経営



行政評価結果

問合先 盛岡市市長公室 企画調整課

〒 020-8530 盛岡市内丸 12 番2号

電話 019-613-8394(直通)

電子メール kikaku@city.morioka.iwate.jp
